

1. はじめに

生きていくうえで必然的に日々増え続ける情報をいかに束ねるか。

その束ねる方法の中で、今回私は web データベースに着目し、膨大な情報をいかに高速かつ見やすくデータベースに収めるかを研究することにした。

また従来のデータベースおよび検索システムは名前に依存することが多く、調べる対象の名前を忘れると検索が非常に困難であることから、人間の視覚のようなあいまいなもので情報の特定を可能とするデータベースのフィールドを構築する。

今回は格闘技を例にとっているが、いかに無知な状態で、その視覚情報だけで、どこまで検索結果を絞れるか。以上の理由から、格闘技ファン初心者を対象にした、web データベースの作成を目的としていき、それにより自身の web データベースの知識を深める。

2. 研究のアプローチ

2005～2007 くらいまでに出場した格闘技選手 (K-1 選手) の情報を公式 HP、TV などから集め、その選手の見た特徴を MySQL によりデータベース化する。

見た特徴というのは具体的に、「髪の毛の長さ」「髪の毛の色」「肌の色」「刺青の有無」などを指し、これらを使って検索をし、ユーザがどこまで情報の特定が行えるかを調べる。

視覚情報という、あいまいな情報を使うため、ルールを作る。

例えば「髪の毛の長さ」の項目には「無」「短」「中」「長」「極長」といったように検索語句を限定させる。

また個々の基準などが大きく出やすいため、判断基準データに「中」の「髪の毛の長さ」の例の写真を載せ、基準の統一を図る。

出力結果には、視覚情報と、選手の名前、国、K-1 Official HP のその選手のリンクを出力する。

3. 結果

今回は私が作ったデータベースでは、ユーザが得たい情報を正しく得ることができなかった。

原因として考えられるのは、体格などの大きさの情報は、判断基準データを与えたとしても、個人の差が出やすく、誤った情報を打ち込んでしまう可能性が非常に高いということと、刺青や髭など、人間

の体の一部分の情報はあらかね正確に覚えておらず、あいまいな記憶のまま、間違った情報を書き込んでしまうという結果がでてしまった。

4. 考察

結果を踏まえた上で、なぜユーザが正しい情報を得ることができなかったかを考察する。

今回、視覚情報としてデータベースの項目に用意したのが「肌の色」:「体格」:「背の高さ」:「階級」:「ファイトスタイル」:「刺青の有無」:「刺青の箇所」:「髪の毛の長さ」:「髭の有無」:「髪の毛の色」:「国」:「年齢」となっている。

それらのデータを、体格や肌の色など、見た目の情報が違う選手 3 人をユーザに調べてもらった結果、その 3 人の選手共通でよい結果が出た項目は「年齢」と「髪の毛の色」であり、それ以外の項目はその選手ごとにそれぞれよい結果は違っていた。

具体的にいうと、肌の色の区別がつきづらい黄色人と白人の選手と比べると、黒人は肌の色で、元大相撲出身の選手は体格で、それぞれよい結果が見られた。

つまり、選手ごとに項目の向き不向きがあることがわかった。

以上のことから、私のデータベースがユーザによってよい結果がでなかったのかを考察すると、選手ごとに、上で述べたような項目の向き不向きがあることを考えないで、データベースを作ってしまったことが今回の失敗の原因と考える。

5. 今後の発展

体格や肌の色などの検索は、選手によって向き不向きがあるため、検索項目としては扱いづらいということがわかった。

よって上の考察より、目的がデータベースによる情報の特定である以上、多少視覚情報検索とはずれてしまっても、ユーザが正しい情報にたどり着ける場合が多かった、年齢や髪の毛の色など、比較的誰の目から見ても差が出にくい情報 + 通常のデータベースで使うような名前やプロフィールなどと組み合わせることで使うことにより、より正しい情報が手に入るデータベースができると思われる。

文献

- [1] MySQL 入門以前 石田 豊 毎日コミュニケーションズ (2005)
- [2] FEG OFFICIAL WEB SITE <http://www.k-1.co.jp/>